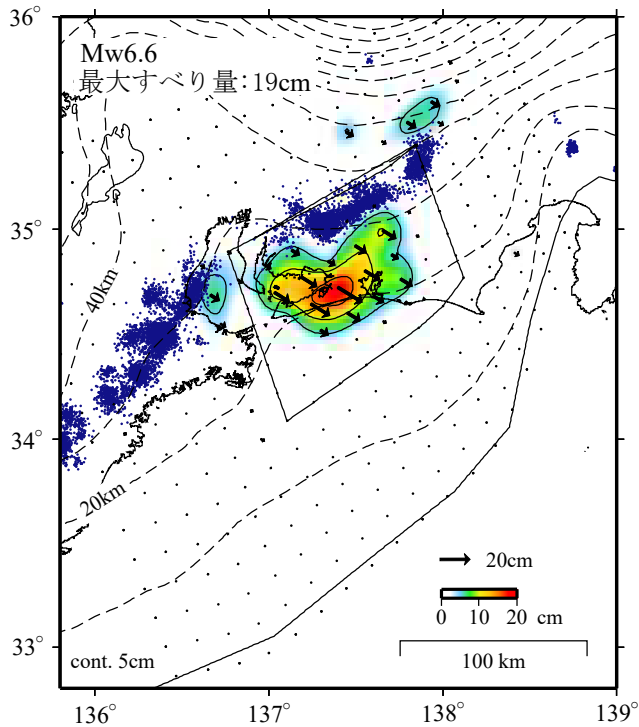
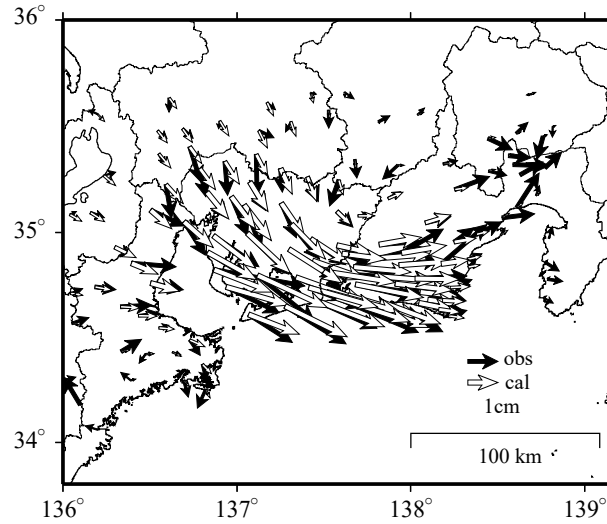


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

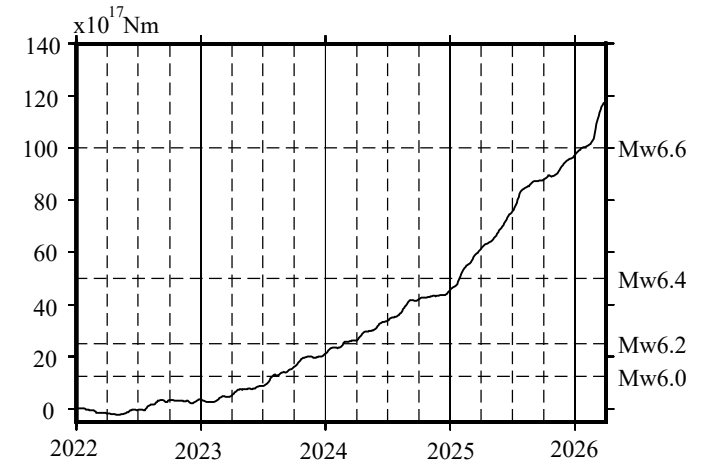
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-03-26)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-03-26)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
・F5.1解(2021-07-01/2026-02-28) + R5.1解(2026-03-01/2026-03-26)
・トレンド期間：2020-01-01/2022-01-01(年周・半年周成分は補正していない)
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2026-03-26)
固定局：三隅

*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
*電子基準点の保守等による変動は補正している。
*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
*共通誤差成分を推定している。
*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。
*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン

